

御由緒

応仁二年（一四六八年）室町時代の創祀と伝えられており旧寺島新田の鎮守として尊崇され古くは「第六天社」と呼ばれていました。明治時代初期の神仏分離の制度で『高木神社』と改めました。その社名は御祭神である高皇産靈神の別名が「高木の神」であるからといわれています。かつては境内に大きな臥龍の松があり曳舟川を上下する舟をはじめ地域の人々の往来の目印となっていました。昭和四十二年一月、鉄筋コンクリート造りの社殿改築が成り昭和四十三年十一月、御鎮座五百年の式年大祭が行われました。平成三十年六月、御鎮座五百五十年記念式年大祭が行われました。令和五年に、御鎮座五五五年を迎えました。

令和五年特別御朱印

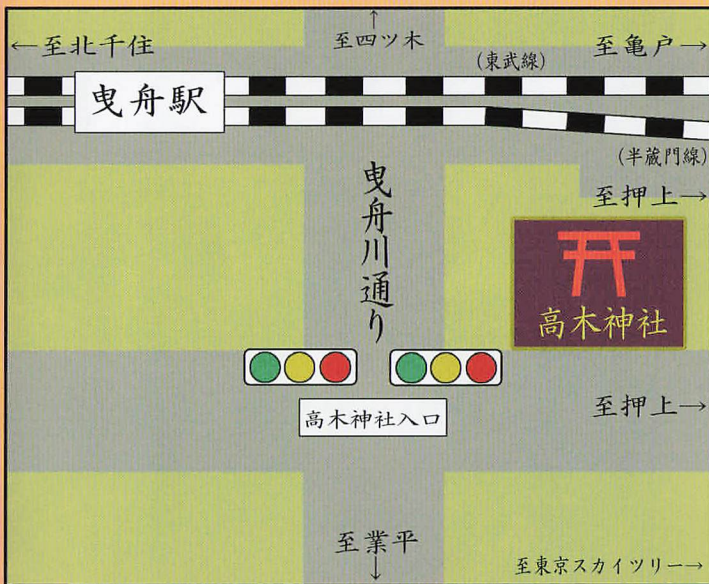
一月 新春
 二月 節分祭・祈年祭
 三月 ひなまつり
 五月 こどもの日
 六月 例大祭
 七月 七夕
 九月 十五夜
 十一月 縁結びの日・新嘗祭
 毎月 月替わり御朱印
 毎月十五日 おむすび印



※内容が変更になる場合もございます。

御祭事

一月 一日 元旦祭
 二月 節分日 節分祭
 二月 十七日 祈年祭
 六月 七日 例祭
 六月 三十日 大祓式
 十一月 十五日 七五三祭
 十一月 二十三日 新嘗祭
 十二月 三十一日 大祓式
 毎月 一日 月次祭



東武スカイツリーライン「曳舟駅」下車 徒歩5分
 京成押上線「京成曳舟駅」下車 徒歩7分
 東京メトロ半蔵門線・都営浅草線「押上駅」
 下車 A3出口より徒歩7分

〒131-0045

東京都墨田区押上2-37-9

TEL/FAX : 03(3611)3459

URL : <http://takagi-jinjya.com>

mail : info@takagi-jinjya.com



応仁2年(1468年)創祀

高木神社



御祭神 高皇産霊神

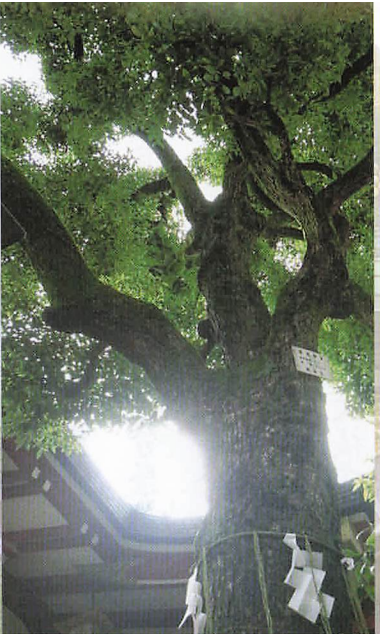


混沌とした世界で天と地が分かれた時、
天上の高天原に三人の神が生まれました。
『三柱の神(造化三神)』
一番目は、「天御中主神(アマノミナカヌシノカミ)」。
二番目は、「高皇産霊神(タカミムスビノカミ)」。
三番目は、「神皇産霊神(カミムスビノカミ)」。
『古事記』では「高御産霊日神」。
『日本書紀』では「高皇産霊尊」と表記されます。
「天孫降臨」・「葦原中津国平定」の際には
「高木神(たかぎのかみ)」という名で登場します。
「産霊(むすび)」は「生産・生成」を意味し、
三番目の神「神皇産霊神」とともに「創造」を
神格化した神とされます。
女神的要素を持つ「神皇産霊神」と対になり、
男女の「むすび」を象徴する神である
とも考えられています。
当社の社紋は、七つの星から成る「七曜紋」。

御神徳

即位前の神武天皇(初代天皇)の
「神武東征」で、熊野から大和に侵攻する際
夢の中に現れ助言を行ったとされています。
「天孫降臨」の際に指揮官や策士として
「天照大御神(伊勢神宮御祭神)」へ
助言するなど政治的な手腕を振るって来た
ことから、「高皇産霊神」が本来の皇祖神
だとする説もあり高天原の最高神が
「天照大御神」、その天照大御神を導く
最高指令神が「高皇産霊神」
と言われています。
当社の御祭神である「高皇産霊神」は、
「万物生成」「心願成就」
「人との縁を結ぶ」
「仕事の縁を結ぶ」
「交渉・相談事がまとまる」
等の尊い御神徳があります。

御神木(大楠)



当社の御神木である『大楠』。
五月・六月に淡い黄緑色の小さな花を咲かせ
樟脳の香りがし、生命力に満ち溢れ、
「延命」、「願望成就」のある常緑高木です。

狛犬

弘化二年銘(一八四五年)
乱石積みの上に安置され、
一般的な「阿吽」の開きとは
異なり、当社の狛犬の口は、
開きが少ない。



山玉向島講社の碑

山玉向島講社は、かつて向島地域にあった
富士講(富士山を信仰する団体)のひとつ。
近代の墨田区における信仰と地域の結びつきの
広がりがある文化財として、
平成二十三年に「墨田区登録文化財」に指定。



水鉢



平面を丸く掘り抜き貯水部とした。
安政四丁巳年九月吉日
氏子より奉納。

龍の口

清子内親王殿下の御成婚を記念し、
平成十七年、氏子より奉納。

むすび石

おむすびの形をした石。
大きささまざまな形があります。
「素敵なご縁がありますように」
と御祈念しております。

